

# 一般化費用関数を用いた銀行業の非効率性分析

## —店舗規制の影響—

青森公立大学 國方 明

本論文は一般化費用関数という手法を用いて、わが国銀行業の非効率性を分析する。銀行業の非効率性に関する研究は 1990 年代以降蓄積されているが、そのほとんどでフロンティア関数という手法が用いられている。一方他の産業では一般化費用関数という手法も用いられている。一般化費用関数とは、規制の存在によって技術的限界代替率と生産要素の市場価格比が異なる状況を、費用関数のパラメータに反映させたものである。そして本論文では銀行業の店舗規制に注目し、店舗規制が①銀行の生産量投入量をどの程度歪め、②総費用をどの程度増加させたのかを分析する。観察対象は 1975 年度～1988 年度の地方銀行と相互銀行である。さらに本論文では、一般化費用関数の関数形として Translog 型ではなく、Hybrid Translog 型を採用する。

本論文で得られた主要な結論は、以下のように要約される。第 1 に店舗規制は、1975 年度～1978 年度と 1981 年度～1984 年度に銀行の生産要素投入量を歪めた。すなわち資本(店舗)は最大 31.9%過少投入され、労働は最大 44.1%過剰投入されている。そして業態を比べると、相互銀行の歪みが大きい。第 2 に生産要素投入量の歪みによって、銀行の総費用は最大 7.6%増加した。しかしほとんどのケースで、総費用の増加率は 0 から有意に離れていない。第 3 に一般化費用関数の関数形に注目すると、Hybrid Translog 型は他の関数形よりも支持された。

**Keywords:** 一般化費用関数, Hybrid Translog 型費用関数, 店舗規制

**JEL Classification :** G21, G28